

さんりんしゃ

AIRA CITY KINDERGARTEN

PHONE 63-2038

FAX 63-2034



在園児歓迎のことば

今だから大事にしたいこと

いよいよ「さんりんしゃ」が動き出しました。子どもたちの健やかな成長のために、職員と保護者の皆様が両輪になって後押しできるよう連携とご協力をよろしくお願いします。

本年度もさんりんしゃは、子育てのヒントになるよう配信していきたいと考えます。

さて、7名の新入園児を加え、18名でスタートしました。

アメリカのロバート・フルガムは「自分が一生涯で大切なものと思われるものすべてを保育園や幼稚園の砂場で学んだ」と言っています。

今だから大事にしたいこと。それは、

「あたきち」～当たり前のことをきちんとさせること。

- 挨拶をきちんとする
- おこったり人をたたいたりしない。
- 仲間はずしや、いじめをしない。
- 誰かを傷つけたら、「ごめんなさい」を言う。
- 名前を呼ばれたら「はい」と返事をする。
- くつをきちんと並べる。
- 食事の前に手を洗い、食後に歯を磨く。
- 使ったものはきちんと片付けるなど。

「あたかん」～当たり前のことへ感謝する。

- お父さん、お母さんに感謝する。
- 給食は作った人に感謝して食べ残さないようにする。
- 食事の時、「いただきます」「ごちそうさま」を言う。

- 家に帰ったら「ただいま」と言う。
- 親切にしてもらったら「ありがとう」と目を見て言うなど。

親として大事にしていきたいこと

「ドント・ウォーリーとドント・マインド」という考え方です。

「心配しないでね」という意味ですが、言い換えれば「思い切ってやってね。失敗してもいいじゃない。」そういう意味があります。

親が気を遣って、結果を考えて「しっかりやってね」とか「用心してやってね」と結果に重点を置いてしまいます。それよりも、行為の過程を大事にして「思い切ってやってね」とか「間違ってもいいのよ。やり直したらいいよ」の方が子どもは思い切って動けるのです。

失敗した場合は、ドント・マインドです。子どもは試行錯誤。「あれやってダメだった。これやってダメだった。ここを直して、そうしたらこれをやってみよう。」といろいろ工夫してやるのです。そうすると、子どもは工夫することが身に付いていくのです。これは、遊びの中で失敗から工夫することを学ぶのです。失敗しても何度でも、ドント・マインド。気にするなというのは、次に挑戦させる基になる言葉です。よくスポーツではドン・マイ、ドン・マイ」と気持ちを一つにして楽しみますよね。それなんです。

遊びは学び・学びは遊び～学びの芽を～

PTA総会の時に話しましたが、今年から小学校以降の学びの基礎となる「学びの芽」を育むために、ヒト・モノ・コトに自ら（主体的に）積極的に関わりながら、様々な「学びの芽」を育んでいけるように進めていきます。子どもの遊びを取り巻く環境づくりや、保育ドキュメンテーションによって「保育の見える化」を図ることができます。また、幼保小連携もより充実したものになっていきます。先生・保護者・子どもの三者が

活動を振り返ったり成長を確認したりしながら新たな課題を発見することもできます。保育活動の質の向上にもつながると考えます。クラスだよりの2枚目は、少しずつ保育活動の写真やエピソードなど、子どもたちの興味を持っているだろう姿や集中している姿、発見や気づきの姿を少しずつ載せていきたいと考えます。子どもたちの「学びに向かう力」を、様々な視点から育んでいけるよう取り組んでいきます。

4つの「める」を大切に

「みつめる」

子どもたちは活動しながら、ちらちらと親（先生）の方を向き、目が合うとにっこりしてまた活動に戻っていくことがあります。子どもたちは自分の活動が正しいのか、このまま続けているのか、時々不安になっているのです。そのとき、親が自分のことを見つめていることを知るとまた安心して、活動に戻ることができます。「みつめる」ことで子どもたちは活動に集中することができます。

「たしかめる」

子どもたちの活動や発言はうまくみんなに伝わらないことがあります。そのときに、子どもの考えを確かめることで、みんなにその子の意図が伝わり、理解が深まることになります。

「褒める」

子どもたちは、褒められることによってやる気が湧いてきますし、活動に対するよいイメージを

もつことができます。ただし、やみくもに褒めればいいわけではありません。子どもたちは意外にシビアに自分のことをみています。褒める方向性が間違っていたり、すぐにお世辞だと分かるような褒め方だったりだと逆効果です。やはり、子どもをよく見つめ、できるようになったこと、うまくいっているところを的確に、具体的に褒めることが大切です。

「みとめる」

子どもたちの活動は、いつも成功するとは限りません。やったことが常に正しいとも限りません。結果だけで判断するのではなく、その過程を見つめ、認めるところは認め、褒めることが大切です。

また、子どもたちを叱る言葉で良くないのが、「全く」とか「全然」とか「少しも」などの言葉です。言葉の遣い方も考える必要がありますね。



PTA役員等

- 会 長 八井田 陽
- 副会長 中峯 紅葵
- 会 計 國塚 麻美
- ばら組世話係 成尾 真帆
- 家庭教育学級長 倉岡 マキ
- 白いポケット 若松 千鶴
(読み聞かせ) 吉永 美穂
- 監 査 上村 明日香
戸内 真美

本年度もみんなの力で幼稚園を盛り上げていきましょう。

よろしくお祈いします。

おやじの会も楽しみです。